

1 健康科学課

健康科学課は、細菌、ウイルス、臨床（表 1-1）及び理化学検査に関する試験検査業務を実施し、調査研究、結核・感染症発生動向調査事業（感染症情報センター）並びに研究所の管理運営を行っている。

細菌検査では、食中毒、苦情食品、収去食品、飲料水、プール水、河川水、浴槽水及び結核・感染症発生動向調査事業等に係る試験検査及び調査研究を行っている。

ウイルス検査では、結核・感染症発生動向調査事業に係る検査と調査研究、並びに食中毒及び感染症の集団発生時の検査を実施している。

臨床検査では、三歳児健康診査の他、特定感染症検査等事業実施要綱に基づき HIV 抗体検査等を実施している。

理化学検査では、食品、家庭用品等について GLP（検査結果の信頼性を担保するための検査業務管理制度）に則した試験検査のほか、食中毒・苦情食品等の理化学検査や飲料水及びプール水等の水質検査、医薬品等検査、室内空気中の化学物質検査などを実施している。

感染症情報センターでは、結核・感染症発生動向調査事業に係る情報の収集・管理・分析等を行い、国に報告するとともに、ホームページ上で情報提供・公開（毎週更新）を行っている。

（1）細菌検査

ア 食中毒発生時及び苦情食品の検査

食中毒及び苦情に伴う患者便、食品、拭き取り等について原因菌及び寄生虫の検索を行った（表 1-2）。原因菌として、*Escherichia albertii*、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌及びウエルシュ菌が検出された。また、寄生虫検査を実施した 1 検体は、*Anisakis simplex* であった。

イ 病原細菌検査

赤痢予防対策実施要綱に基づき、給食従事者及び保健所職員の定期検便等を実施した（表 1-3）。赤痢菌、チフス菌及び腸管出血性大腸菌等の病原菌は検出されなかった。

感染症法に基づき、感染症発生時に細菌検査を実施した（表 1-4）。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）検査では、*Enterobacter cloaca* が最も多く、耐性遺伝子は全て IMP 型であった。（表 1-5）。

ウ 収去食品等の細菌検査

食品衛生法に基づく規格基準、千葉市の指導基準及び食品の汚染状況に係る細菌検査を実施した（表 1-6）。

エ 水質検査

水道法に基づく飲料水検査、千葉市遊泳用プール指導要綱に基づくプール水検査及び環境基本法等に基づく事業場排水、河川水、海水、海水浴場水の検査を実施した。また、公衆浴場法及び特定建築物維持管理指導要綱に基づき、浴槽水、冷却塔水等のレ

ジオネラ検査を実施した。

水質細菌検査の種類及び項目数については、表 1-7 のとおりである。

（2）ウイルス検査

ア 結核・感染症発生動向調査事業に係るウイルス検査（表 1-8）

（ア）麻疹ウイルス及び風疹ウイルス検査

保健所から依頼された咽頭ぬぐい液 363 検体、血液 362 検体、尿 347 検体及び脳脊髄液 1 検体の計 1,073 検体について実施した。その結果、麻疹ウイルスは 2 症例 2 検体、風疹ウイルスは 89 症例 202 検体から検出された。その内訳は、麻疹ウイルスは型別不明が 1 症例、A 型（ワケン株）が 1 症例、風疹ウイルスは型別不明が 19 症例、1E 型が 70 症例であった。

（イ）デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルス検査

保健所から依頼された血液 7 検体及び尿 5 検体の計 12 検体について検査を実施した。その結果、デングウイルス 3 型が血液 1 検体から検出された。

（ロ）その他のウイルス検査

保健所及び病原体定点から依頼された咽頭ぬぐい液、糞便及び髄液等 491 検体について検査を実施した。

（ハ）リケッチア検査

保健所から依頼された血液 4 検体、痂皮 1 検体の計 5 検体について検査を実施した。その結果、オリエンティア・ツツガムシが血液 1 検体、痂皮 1 検体から検出された。

イ 食中毒及び感染症の集団発生時のウイルス検査（表 1-9）

食中毒及び感染症の集団発生時の食品、糞便及び拭き取り検体について、ノロウイルス及びその他のウイルス検査を実施した。また、ウイルスが検出された一部の検体については遺伝子解析（シーケンス）を実施した。

ウ 蚊媒介感染症に関する定点モニタリング検査

保健所から依頼された蚊の虫体 11 検体（30 匹）について、デングウイルス、チクングニアウイルス及びジカウイルスの検査を実施した（表 1-1）。その結果、全ての検体で不検出であった。

（3）臨床検査

ア 三歳児健康診査

三歳児健康診査について尿検査（一次、二次）を行った。一次検査は糖、蛋白、潜血、白血球、亜硝酸塩、比重について、二次検査は糖、蛋白、潜血、白血球、亜硝酸塩に沈査を追加して行った（表 1-10）。一次検査 6,937 件のうち、有所見者（糖・蛋白・潜血が±以上、白血球・亜硝酸塩が+以上）を対象に行った二次検査数は 610 件（8.8%）であった。

イ HIV抗体検査

特定感染症検査等事業に係る HIV 抗体検査を行った。スクリーニング検査 717 件のうち、確認検査による陽性は 1 件であった（表 1-11）。

表 1-1 2018 年度 健康科学課（細菌・ウイルス・臨床）検査件数

総 計		58,722
細菌	食中毒細菌（寄生虫を除く）	7,331
	病原細菌	341
	食品細菌	1,682
	飲料水細菌	1,000
	プール水細菌	20
	河川水、放流水等の細菌	194
	冷却塔水、浴槽水等	22
寄生虫	同定（鏡検、遺伝子）	1
真菌	分離培養	-
ウイルス	分離同定（含食中毒、食品及び蚊）	2,132
	HIV 抗体検査（スクリーニング）	717
臨床	尿一般	45,282

表 1-2 2018 年度 食中毒発生時及び苦情食品等の細菌検査実施状況（寄生虫も含む）

区 分		総数	食品	糞便	吐物	ふきとり	その他
検 体 数		523	105	260	-	157	1
項 目 数		7,332	1,370	3,671	-	2,290	1
検 査 項 目	生菌数	5	5	-	-	-	-
	大腸菌群	5	5	-	-	-	-
	E.coli	-	-	-	-	-	-
	ビブリオ属菌	485	90	243	-	152	-
	黄色ブドウ球菌	494	90	247	-	157	-
	サルモネラ属菌	485	90	243	-	152	-
	カンピロバクター	500	91	257	-	152	-
	腸管出血性大腸菌	489	90	247	-	152	-
	病原大腸菌	485	90	243	-	152	-
	セレウス菌	503	99	247	-	157	-
	ウェルシュ菌	485	90	243	-	152	-
	エルシニア	485	90	243	-	152	-
	エロモナス	485	90	243	-	152	-
	プレジオモナス	485	90	243	-	152	-
	赤痢菌	485	90	243	-	152	-
	コレラ菌	485	90	243	-	152	-
	チフス菌	485	90	243	-	152	-
パラチフス菌	485	90	243	-	152	-	
その他の菌	-	-	-	-	-	-	
寄生虫	1	-	-	-	-	1	
検 出 状 況	腸管出血性大腸菌 O128	1	-	1	-	-	-
	<i>Escherichia albertii</i>	2	-	2	-	-	-
	サルモネラ属菌	2	2	-	-	-	-
	カンピロバクター属菌	20	4	16	-	-	-
	ウェルシュ菌	1	-	1	-	-	-
<i>Anisakis simplex</i>	1	-	-	-	-	1	

表 1-3 2018 年度 腸内細菌検査実施状況

項目	件数
赤痢菌、チフス菌	76
腸管出血性大腸菌等	107
計	183

表 1-4 2018 年度 感染症発生時細菌検査実施状況

項目	患者及び接触者等
赤痢菌	-
チフス菌	5
コレラ菌	-
腸管出血性大腸菌	95
CRE (院内感染を含む)	46
その他	12
計	158

表 1-5 2018 年度 CRE 検査実施状況

菌種	件数	検出遺伝子(IMP 型)
<i>Enterobacter cloacae</i>	34	32
<i>Klebsiella aerogenes</i>	7	-
<i>Escherichia coli</i>	2	-
<i>Serratia marcescens</i>	3	-
計	46	32

表 1-6 2018 年度 収去食品等の細菌検査実施状況

項目 分類	総数	細菌検査実施状況																				
		細菌数	大腸菌群	E. coli 最確数	E. coli	乳酸菌数	ビブリオ属菌	腸炎ビブリオ最確数	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	カンピロバクター	腸管出血性大腸菌	セレウス菌	ウェルシュ菌	リステリア	クロストリジウム属菌	恒温試験	腸球菌	VRE	緑膿菌	細菌試験	抗生物質
項目数	1,682	236	142	9	118	4	623	34	158	135	90	108	3	-	2	-	5	-	-	-	5	10
魚介類	191	9	1	9	-	-	128	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
冷凍食品 (無加熱摂取)	12	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷凍食品 (凍結前加熱)	41	20	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
冷凍食品 (凍結前未加熱)	38	19	-	-	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
魚介類加工品	120	12	17	-	3	-	63	-	3	6	3	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
肉卵類及び その加工品	274	32	6	-	21	-	42	-	45	74	34	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳製品	23	5	12	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-
アイスクリーム類 氷菓	20	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
穀類及び その加工品	71	15	10	-	5	-	18	-	14	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
野菜類・果実及び その加工品	171	21	19	-	18	-	72	-	14	2	-	22	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
菓子類	96	32	30	-	2	-	-	-	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
清涼飲料水	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
牛乳	10	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
加工乳(3%未満)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の食品	610	50	-	-	50	-	300	-	50	50	50	50	-	-	-	-	5	-	-	-	5	-

表 1-7 2018 年度 水質細菌検査実施状況

検査項目	件数
飲料水	
一般細菌	392
大腸菌	512
嫌気性芽胞菌	96
小計	1,000
プール水	
一般細菌	10
大腸菌群	10
小計	20
事業場排水	
大腸菌群数	61
河川水、海水	
大腸菌群数（最確数）	132
海水浴場水	
EHEC O157	1
小計	194
浴槽水・冷却塔水等	
レジオネラ	22
小計	22
総計	1,236

表 1-8 2018 年度 結核・感染症発生動向調査事業に係るウイルス等検査実施状況

		咽頭ぬぐい液 (うがい液含む)	鼻汁	糞便 等	髄液	尿	血液	その他	計
検 体 数	病原体定点	40	340	26	-	-	-	27	433
	保健所	376	-	17	15	356	381	3	1,148
	計	416	340	43	15	356	381	30	1,581
検 出 状 況	インフルエンザウイルス	-	76	-	-	-	-	-	76
	コクサッキーウイルス	-	1	-	-	-	-	1	2
	エコーウイルス	1	-	-	-	-	-	-	1
	エンテロウイルス D68	-	2	-	-	-	-	-	2
	ヒトライノウイルス	1	54	-	-	-	-	6	61
	ヒトコロナウイルス	2	17	-	-	-	-	4	23
	RS ウイルス	1	65	-	-	-	-	3	69
	ヒトメタニューモウイルス	2	55	-	-	-	-	3	60
	パラインフルエンザウイルス	-	33	-	-	-	-	3	36
	ヒトボカウイルス	4	47	-	-	-	-	7	58
	アデノウイルス	23	7	-	-	-	-	2	32
	単純ヘルペスウイルス	-	1	-	-	-	-	-	1
	ヒトヘルペスウイルス	4	-	-	-	-	1	1	6
	水痘帯状疱疹ウイルス	-	-	-	1	-	-	-	1
	ヒトパルボウイルス B19	-	-	-	-	-	-	1	1
	A 型肝炎ウイルス	-	-	2	-	-	-	-	2
	ノロウイルス	-	-	4	-	-	-	-	4
	サポウイルス	-	-	5	-	-	-	1	6
	アストロウイルス	-	-	1	-	-	-	-	1
	ロタウイルス	-	-	2	-	-	-	-	2
デングウイルス	-	-	-	-	-	1	-	1	
麻疹ウイルス	1	-	-	-	-	1	-	2	
風疹ウイルス	85	-	-	-	51	66	-	202	
オリエンティア・ツツガムシ	-	-	-	-	-	1	1	2	

表 1-9 2018 年度 食中毒及び感染症の集団発生時のウイルス検査実施状況

		食品	糞便	吐物	拭き取り	その他	計
検 体 数	食中毒	123	235	-	152	-	510
	感染症	-	30	-	-	-	30
	計	123	265	-	152	-	540
項 目 別 検 体 数	ノロウイルス	123	264	-	152	-	539
	その他のウイルス (※)	55	212	-	144	-	411
	遺伝子解析	-	49	-	-	-	49
	計	178	525	-	296	-	999
検 出 状 況	ノロウイルス G I	-	6	-	-	-	6
	ノロウイルス G II	-	101	-	-	-	101
	サポウイルス	-	1	-	-	-	1
	アストロウイルス	-	1	-	-	-	1
	アデノウイルス	-	1	-	-	-	1

(※) その他のウイルス：サポウイルス、アストロウイルス、ロタウイルス及びアデノウイルス

表 1-10 2018 年度 臨床検査実施状況

検 査 項 目		区 分	総 数	内 訳	
				三歳児健診	
				一次	二次
尿	糖		7,547	6,937	610
	蛋白		7,547	6,937	610
	潜血反応		7,547	6,937	610
	白血球		7,547	6,937	610
	亜硝酸塩		7,547	6,937	610
	比重		6,937	6,937	-
	沈渣		610	-	610

表 1-11 2018 年度 H I V 抗体検査実施状況

項目	件数	陽性数
スクリーニング検査	717	1
確認検査	1	1

(4) 理化学検査

ア 食品等検査

2018年度の理化学検査総数は、食品等822検体、18,103項目であった。

(7) 食品中の添加物等検査、乳及び乳製品・容器包装等の規格試験検査、重金属検査、自然毒検査

a 添加物等検査

甘味料257項目、着色料1,674項目、保存料219項目、酸化防止剤108項目、漂白・殺菌剤13項目、発色剤26項目、防ばい剤2項目、品質保持剤13項目、乳化剤10項目を実施した(表1-11-1)。

b 乳及び乳製品

乳等規格検査56項目を実施した(表1-11-1)。

c 容器包装等規格検査

容器包装等規格検査51項目(器具容器包装の重金属検査18項目を含む)を実施した(表1-11-1)。

d 重金属検査

魚介類、清涼飲料水、器具容器包装などについて73項目(容器包装等規格検査項目に計上した器具容器包装の重金属18項目及び添加物規格の2項目を含む)を実施した(表1-11-1~2)。

e 自然毒検査

カビ毒、貝毒について12検体12項目を実施した(表1-11-1、表1-11-3)。

(4) 農産物等の残留農薬検査

穀類及びその加工品5検体810項目、農産物(豆類、果実、野菜、種実、茶)74検体12,514項目、学校給食食材11検体11項目を実施した。

以上、全体で178種類の農薬について、合計90検体13,335項目の検査を実施した(表1-11-1、表1-11-4-1~3)。

(4) 畜水産物中の残留動物用医薬品の検査

乳(生乳・牛乳)6検体96項目、鶏卵9検体171項目、食肉(牛肉・豚肉・鶏肉)39検体816項目(うち2検体2項目は学校給食)、魚介類(コイ・マダイ等9種)19検体102項目を実施した。

以上、23種類の動物用医薬品について73検体1,185項目の検査を実施した(表1-11-5)。

(4) 組換えDNA技術応用食品の検査

トウモロコシ5検体5項目の検査を実施した(表1-11-6)。

(4) 流通食品中の放射能検査

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質の汚染状況について、流通食品および給食(提供食・食材)の検査を438検体実施した。(表1-11-7)。

(4) 苦情食品検査

保健所から依頼された苦情食品検査は16検体で、依頼項目は144項目であった(表1-11-8~9)。

イ 家庭用品の規格検査

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、健康被害を防止するため、ホルムアルデヒド等8項目について検査を行った。内訳は繊維製品13種106項目、家庭用化学製品3種22項目であり、合計16種128項目の検査を実施した(表1-12)。

ウ 飲料水等及び遊泳用プール水の水質検査

飲料水等の水質検査は、水道法の「水質基準に関する省令」に基づき、51基準項目(31健康項目+20性状項目)について実施した。また、「千葉市遊泳用プール指導要綱」に基づきプール水の検査を行った。

2018年度の全検査件数は577件で、このうち飲料水等の水質検査は566件、プール水は11件であった(表1-13-1)。

自家用井戸水の検査件数167件中37件(22.2%)で不適項目があった(表1-13-2)。

必須項目検査を実施した自家用井戸水(156件)の検査結果を区別、項目別に集計した(表1-13-3)。また、2018年度に検査を実施した飲料水等の検査項目別理化学検査件数と不適合数を表1-13-4に示した。なお、プール水の検査状況は表1-13-5のとおりであった。

エ 室内空気化学物質の検査

建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づく依頼検査を4件20検体について実施した(表1-14)。

表 1-11-1 2018 年度 食品理化学等検査実施状況

検査項目 検査検体の種類	検体数	食 品 添 加 物 等										乳等規格 容器包装等規格 添加物規格 清涼飲料水規格 重金属 カビ毒・貝毒					残留農薬 動物用医薬品 組換えDNA技術応用食品 放射能 その他					総検査項目数		
		甘味料	着色料	保存料	酸化防止剤	漂白・殺菌剤	発色剤	防ばい剤	品質保持剤	乳化剤	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖	乳糖			
検査区分合計	822	257	1,674	219	108	13	26	2	13	10	56	51	12	82	29	12	13,335	1,185	5	876	138	18,103		
食 品 等	魚 介 類	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	3	-	102	-	52	1	185		
	魚介類加工品	44	44	267	42	6	1	10	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	1	399		
	肉卵類及びその加工品	75	-	168	15	12	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	987	-	16	-	1,214	
	乳 製 品	29	18	12	21	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	26	-	81	
	乳類加工品	3	-	-	9	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	
	アイスクリーム類・氷菓	10	20	120	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	150	
	穀類及びその加工品	26	-	96	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	810	-	5	10	11	943	
	野菜類・果物及びその加工品	175	63	381	54	8	12	-	2	-	-	-	-	-	-	-	3	12,525	-	-	92	-	13,140	
	菓 子 類	43	94	522	50	70	-	-	-	-	10	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	1	750	
	清涼飲料水	24	6	36	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82	-	-	-	-	-	-	38	-	172
	その他の食品	298	12	72	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	584	-	686
	添加物及びその製剤	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	2	-	-	-	-	-	-	-	13
	器具容器包装	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	51
	生 乳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	16	-	-	-	-	19
牛 乳	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	5	-	80	-	12	-	-	117	
加工乳(脂肪分3%未満)	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	8	
その他の乳	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	10	
小 計	806	257	1,674	219	108	13	26	2	13	10	36	51	12	82	29	12	13,335	1,185	5	876	14	17,959		
苦情品(食品等)	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	124	-	144	

表 1-11-2 2018年度 重金属検査

項目名	検体名											総計	
		清涼飲料水	器具容器包装	添加物	アサリ	クルマエビ	スズキ	ヒラメ	ブリ	ホタテガイ	マダイ		ムラサキイガイ
検体数		5	6	2	1	1	1	1	2	1	1	1	22
ホウ素		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
六価クロム		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
マンガン		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
銅		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ヒ素		5	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	7
セレン		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
カドミウム		2	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
バリウム		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
鉛		5	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
水銀		2	-	-	1	1	1	1	2	1	1	1	11
TBTO		-	-	-	1	1	1	1	2	1	1	1	9
TPT		-	-	-	1	1	1	1	2	1	1	1	9
重金属（器具容器包装規格・添加物規格）		-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
合計		26	18	2	3	3	3	3	6	3	3	3	73

表 1-11-3 2018年度 自然毒検査

項目名	検体名								総計
		らつかせい	ペカンナッツ	牛乳	生乳	アサリ	ムラサキイガイ	ホタテガイ	
検体数		2	1	5	1	1	1	1	12
総アフラトキシン		2	1	-	-	-	-	-	3
アフラトキシンM1		-	-	5	1	-	-	-	6
麻痺性貝毒		-	-	-	-	1	1	1	3
合計		2	1	5	1	1	1	1	12

表 1-11-4-1 2018年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 収去・買上検査）

分類	検体種	検体数	項目数
穀類及びその加工品	小麦粉	5	810
豆類	らっかせい	2	300
果実	いちご	2	346
	日本なし	1	173
野菜	えだ豆	1	173
	オクラ	1	174
	かぼちゃ	2	341
	キャベツ	5	850
	きゅうり	2	346
	ごぼう	1	177
	こまつな	4	688
	さつまいも	1	170
	さといも	2	340
	サラダ菜	3	519
	しゅんぎく	1	174
	しょうが	1	177
	すいか	2	346
	そら豆	1	172
	だいこん	2	352
	たまねぎ	1	171
	チンゲン菜	1	174
	トマト	2	352
	なす	2	352
	なばな	1	161
	にら	2	342
	にんじん	6	1,049
	ねぎ	2	342
	はくさい	1	173
	ばれいしょ	1	167
	ピーマン	2	333
	ブロッコリー	3	490
	ほうれんそう	3	516
	未成熟いんげん	1	159
	芽キャベツ	1	157
	らっきょうその他ユリ科	1	171
	レタス	2	346
	れんこん	1	170
	わけねぎ	1	171
種実類	ベカンナッツ	1	150
茶	茶	5	750
	合計	79	13,324

表 1-11-4-2 2018年度 農作物等の残留農薬検査（検体種別 給食食材）

分類	検体種	検体数	項目数
野菜	キャベツ	2	2
	こまつな	3	3
	だいこん	1	1
	たまねぎ	1	1
	チンゲンサイ	1	1
	トマト	1	1
	にんじん	1	1
	はくさい	1	1
	合計	11	11

表 1-11-4-3 2018年度 農作物等の残留農薬検査（農薬別 収去・買上、給食食材検査数）

農薬名	検査数	農薬名	検査数	農薬名	検査数
BHC(リンデンを除く)(和)	79	ジメトエート	79	フルバリネート(合算)	79
DDT	76	ジメピペレート	79	フルフェノクスロン	58
EPN	3	シラフルオフエン	76	フルミオキサジン	79
XMC	76	ダイアジノン	79	フルミクロラックペンチル	66
アクリナトリン	79	チオベンカルブ	79	プレチラクロール	79
アザコナゾール	74	チオメトン	74	プロシミドン	79
アセタミプリド	69	テトラクロルビンホス	79	プロチオホス	76
アセトクロール	79	テトラジホン	79	プロパクロール	74
アトラジン	66	テニルクロール	79	プロパニル(DCPA)	66
アメトリン	52	テブコナゾール	79	プロバルギット(合算)	79
アルジカルブ	58	テブフェノシト	58	プロピコナゾール(合算)	79
アルドリン及びディルドリン	40	テブフェンピラド	79	プロピザミド	79
イサゾホス	79	テフルトリン	79	プロフェノホス	79
イソキサチオン(代謝体含)	79	テフルベンズロン	58	プロボキスル	79
イソフェンホス	79	デルタメトリン	79	プロマシル	79
イソプロカルブ	79	テルブホス	79	プロメトリン	79
イソプロチオラン	79	トリアジメノール(合算)	79	プロモブチド	79
イブロジオン	79	トリアジメホン	79	プロモプロピレート	79
イプロバリカルブ	58	トリアゾホス	79	プロモホスメチル	79
イプロベンホス	79	トリアレート	76	ヘキサジノン	74
イマザメタベンズメチルエステル	71	トリブホス(DEF)	79	ベナラキシル	79
イミベンコナゾール	69	トリフロキシストロビン	79	ベノキサコル	79
エスプロカルブ	79	トルクロホスメチル	79	ヘプタロール	76
エチオン	79	トルフェンピラド	79	ベルメトリン(合算)	76
エディフェンホス	79	ナプロパミド	79	ベンダイオカルブ	58
エトフメセート	79	ニトロタールイソプロピル	79	ペンディメタリン	79
エトプロホス	79	ノルフルラゾン	79	ベンフルラリン	74
エトリムホス	79	パクロブトラゾール	79	ベンフレセート	79
エンドスルフアン(和)	79	パラチオン	78	ホサロン	79
エンドリン	33	パラチオンメチル	79	ホスチアゼート(合算)	79
オキサジアブン	79	ハルフェンブロックス	76	ホスファミドン	74
オキサジキシル	79	ビテルタノール(合算)	79	ホスメット	66
オキサミル	58	ビフェントリン	79	ホレート	74
オキシフルオルフェン	79	ピペロホス	79	マラチオン	79
カズサホス	79	ピラクロホス	79	ミクロブタニル	74
カルバリル	58	ピラゾホス	79	メタラキシル	79
カルフェントラゾンエチル	79	ピリダフェンチオン	79	メチオカルブ	79
カルボフラン	79	ピリダベン	79	メチダチオン	79
キナルホス	52	ピリフェノックス(和)	79	メトキシクロル	79
キノキシフェン	79	ピリプロキシフェン	79	メトミノストロビン(和)	79
キノクラミン	47	ピリミカルブ	58	メトラクロール	79
キントゼン	71	ピリミホスメチル	79	メフェナセット	79
クロマゾン	79	ピンクロゾリン	79	メブロニル	79
クロルタールジメチル(TCTP)	79	フェナミホス	79	モノクロトホス	74
クロルデン	76	フェナリモル	79	ルフェヌロン	58
クロルビリホス	90	フェニトロチオン	79	レナシル	74
クロルビリホスメチル	79	フェノチオカルブ	79		
クロルフェンビンホス(合算)	79	フェノトリン(合算)	76		
クロルフルアズロン	58	フェノブカルブ	58		
クロルプロファミ	79	フェンスルホチオン	74		
クロルベンジレート	79	フェンチオン	79		
シアノホス	79	フェントエート	79		
ジエトフェンカルブ	79	フェンバレレート(合算)	79		
ジクロホップメチル	79	フェンブコナゾール	74		
ジクロラン	79	フェンプロパトリン	79		
ジコホール(合算)	64	フェンプロピモルフ	76		
シハロトリン(合算)	79	フサライド	79		
ジフェナミド	79	ブタミホス	79		
ジフェノコナゾール(合算)	79	ブピリメート	79		
シフルトリン(合算)	79	ブプロフェジン	79		
ジフルベンズロン	58	フラムプロップメチル	79		
シプロコナゾール(合算)	79	フルアクリピリム	79		
シベルメトリン(合算)	76	フルシトリネート(合算)	79		
シマジン	79	フルシラゾール	79		
ジメタメトリン	74	フルトラニル	66		
ジメチルビンホス(合算)	79	フルトリアホール	79	合計	13,335

表 1-11-5 2018 年度 畜水産物中の残留動物用医薬品検査

検体名 項目名	牛乳	生乳	鶏卵	牛肉	豚肉	鶏肉	アユ	マダイ	コイ	ニジマス	ウナギ	ヒラメ	クルマエビ	ブリ	生食用カキ	総計
検体数	5	1	9	13	1	25	1	1	1	2	1	1	1	2	9	73
オキシテトラサイクリン	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	9	71
クロルテトラサイクリン	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
テトラサイクリン	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
スピラマイシン	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	3
スルファメラジン	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	62
スルファジミジン	5	1	9	13	1	25	1	1	1	2	1	1	1	2	-	64
スルファモノメトキシシ	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	62
スルファジメトキシシ	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	62
スルファキノキサリン	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	62
スルファジアジン	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
スルファチアゾール	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
スルファドキシシ	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
スルファメトキサゾール	-	-	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
オキシソリン酸	5	1	-	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	53
チアンフェニコール	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	62
オルメトプリム	5	1	9	13	-	24	1	1	1	2	1	1	1	2	-	62
チアベンダゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
フルベンダゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
トリメトプリム	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
5-プロピルスルホニル-1H-ベン ズイミダゾール-2-アミン	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
レバミゾール	5	1	9	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
オフロキサシ	-	-	-	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
オルビロキサシ	-	-	-	13	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37
合計	80	16	171	286	1	529	9	10	9	18	9	9	9	20	9	1,185

表 1-11-6 2018 年度 組換え DNA 技術応用食品検査

品 種	検体種類	項 目	検体数	項目数
トウモロコシ	加工食品	トウモロコシ (CBH351)	5	5

表 1-11-7 2018 年度 放射能検査

対 象 食 品	検体数	依頼元
流通食品	150	食品安全課
保育所給食	陰膳 (提供食検査)	幼保運営課
	食材検査	
学校給食	陰膳 (提供食検査)	保健体育課
	食材検査	
合 計	438	

表 1-11-8 2018 年度 苦情食品検査 (理化学検査)

搬入月	検 体 の 種 類	検体数	検 査 項 目
4 月	みかん (缶詰)	1	揮発性有機化合物 (19 項目)
	牛乳	5	比重、酸度、無脂乳固形分、乳脂肪分、揮発性有機化合物 (19 項目)
6 月	トマト	1	鑑別
12 月	ぶりの切り身	7	ヒスタミン
	ぶり照り焼き	2	ヒスタミン

苦情食品等検査依頼数 4 件 依頼検体数 16 検体 144 項目

表 1-11-9 2018 年度 項目別苦情食品等検査依頼件数

項 目	依頼件数
揮発性有機化合物	6
比重	5
酸度	5
無脂乳固形分	5
乳脂肪分	5
鑑別	1
ヒスタミン	9

表 1-12 2018 年度 家庭用品検査

項目名 検体名		ホルムアルデヒド			有機水銀	ディルドリン	水酸化カリウム・水酸化ナトリウム	メタノール	テトラクロロエチレン	トリクロロエチレン	容器試験	検査数合計	検体数合計
		生後二十四ヶ月以内のもの	生後二十四ヶ月以内を除くもの	小計									
試験検査数合計		59	12	71	33	4	2	4	6	6	2	128	80
基準違反数合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
織 維 製 品	おしめ	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	おしめカバー	2	-	2	2	-	-	-	-	-	-	4	2
	よだれ掛け	5	-	5	4	-	-	-	-	-	-	9	5
	下着	8	4	12	12	-	-	-	-	-	-	24	12
	中衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	外衣	8	-	8	-	-	-	-	-	-	-	8	8
	手袋	2	2	4	4	2	-	-	-	-	-	10	4
	くつした	6	2	8	8	-	-	-	-	-	-	16	8
	帽子	6	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	6
	衛生パンツ	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1
	寝衣	8	2	10	-	-	-	-	-	-	-	10	10
	寝具	4	-	4	-	-	-	-	-	-	-	4	4
	家庭用毛糸	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	2
	小計		59	10	69	33	4	0	0	0	0	0	106
家庭用化学製品	家庭用接着剤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	くつしたどめ等接着剤	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	2
	家庭用塗料	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	家庭用ワックス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	くつ墨・くつクリーム	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
	家庭用エアゾル製品	-	-	-	-	-	-	4	4	4	-	12	4
	家庭用洗剤	-	-	-	-	-	2	-	2	2	2	8	2
	防腐木材・防虫木材	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0
小計		0	2	2	0	0	2	4	6	6	2	22	8

表 1-13-1 2018 年度 飲料水等及びプール水の検査種別件数

検体名	検査種別	一般依頼件数	保健所依頼件数	合計
飲料水等	全項目検査	9	0	9
	省略不可能項目検査	58	0	58
	必須項目検査	298	6	304
	有機塩素系検査	0	0	0
	給水設備関連項目検査	14	0	14
	消毒副生成物検査	8	0	8
	原水項目検査	4	0	4
	単項目検査（細菌検査分を含む）	169	0	169
	小 計	560	6	566
プール水		11	0	11
合 計		571	6	577

表 1-13-2 2018 年度 飲料水等の検体種別検査結果

検体種別	検査件数	適合件数	不適合件数	不適合率 (%)
自家用井戸水	167	130	37	22.2
専用水道原水	86	84	2	2.3
専用水道浄水	222	222	0	0.0
小規模専用水道原水	14	6	8	57.1
小規模専用水道浄水	21	20	1	4.8
簡易専用水道	21	21	0	0.0
その他	35	35	0	0.0
合 計	566	518	48	8.5

表 1-13-3 2018 年度 自家用井戸水における区別必須項目検査結果

項目 区名	検査 件数	不 適合 数	不 適合 率 (%)	項 目 別 不 適 合 数									
				一般 細菌	大腸菌	亜硝酸 態窒素	硝酸・ 亜硝酸 態窒素	塩素 イオン	有機 物	pH 値	臭気	色度	濁度
中央区	17	3	17.6	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
花見川区	14	6	42.9	1	-	-	4	1	-	-	-	-	-
稲毛区	10	3	30.0	1	1	-	-	-	-	-	1	-	-
若葉区	79	18	22.8	7	1	-	7	-	-	-	3	1	-
緑区	34	4	11.8	1	1	-	2	-	-	-	1	-	-
美浜区	2	0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	156	34	21.8	12	4	0	13	1	0	0	5	1	-

表 1-13-4 2018 年度 項目別飲料水等理化学検査

	検査件数	不適合数	不適合率(%)
亜硝酸態窒素	389	0	0
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	389	14	3.6
塩化物イオン	389	1	0.3
有機物（全有機炭素（TOC）の量）	389	0	0
pH値	389	0	0
臭気	389	7	1.8
色度	390	3	0.8
濁度	389	1	0.3
カドミウム	13	0	0
水銀	13	0	0
セレン	13	0	0
鉛	27	0	0
ヒ素	26	2	7.7
六価クロム	14	0	0
シアン化物イオン及び塩化シアン	79	0	0
臭素酸	75	0	0
ホルムアルデヒド	75	0	0
フッ素	13	0	0
亜鉛	27	0	0
鉄	39	0	0
銅	27	0	0
ナトリウム	13	0	0
マンガン	37	0	0
カルシウム、マグネシウム等（硬度）	13	0	0
蒸発残留物	27	0	0
陰イオン界面活性剤	13	0	0
フェノール類	13	0	0
ホウ素	13	0	0
1,4-ジオキサン	13	0	0
アルミニウム	14	1	7.1
非イオン界面活性剤	13	0	0
ジオスミン	13	0	0
2-メチルイソボルネオール	13	0	0
クロロ酢酸	75	0	0
ジクロロ酢酸	75	0	0
トリクロロ酢酸	75	0	0
ジクロロメタン	13	0	0
シス1,2-ジクロロエチレン及びトランス1,2-ジクロロエチレン	13	0	0
ベンゼン	13	0	0
クロロホルム	75	0	0
ジブromクロロメタン	75	0	0
ブromジクロロメタン	75	0	0
ブromホルム	75	0	0
総トリハロメタン	75	0	0
四塩化炭素	13	0	0
テトラクロロエチレン	13	0	0
トリクロロエチレン	13	0	0
1,1,1-トリクロロエタン	0	0	0
塩素酸	75	0	0
合 計	4,502	29	

表 1-13-5 2018 年度 プール水検査

検査項目	検査件数
pH値	10
濁度	10
有機物等（過マンガン酸カリウム消費量）	10
総トリハロメタン	1
合計	31

表 1-14 2018 年度 室内中化学物質検査

項目	検査件数	検体数
ホルムアルデヒド	4	20

表 1-15 2018 年度 精度管理に関する業務

	内部精度管理		外部精度管理		
	実施頻度	実施項目	実施項目数 実施検体数	実施項目	実施機関
食品等	検査実施毎	試験品の検査項目毎に添加回収試験を実施	5項目 3検体	<ul style="list-style-type: none"> ・あん類中のソルビン酸の定量 ・とうもろこしペースト中の6種農薬中3種農薬の定性と定量 ・あん類中の着色料の定性 	一般財団法人食品薬品安全センター
家庭用品	検査実施毎	試験品の検査項目毎に添加回収試験を実施	-	-	-
飲料水等	検査実施毎	約10試料毎及び最後に一定濃度の標準試料を測定し、算出濃度が規定値内かを確認	2項目 2検体	<ul style="list-style-type: none"> ・濁度 ・フッ素及びその化合物 	千葉県水道水質管理連絡協議会 (水質検査精度管理委員会)
			3項目 4検体	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛及びその化合物 ・クロロホルム ・プロモジクロロメタン 	

(5) 内部精度管理・外部精度管理

検査の信頼性確保を目的として「千葉市食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領」及び「千葉市病原体等検査業務要領」等に基づき、内部精度管理・外部精度管理を行った。

ア 細菌検査

各検査は、「標準作業書」に基づき実施し、検査に使用する機器類についても、GLPで規定した「機械器具保守管理標準作業書」に基づく保守点検を実施した。

(7) 内部精度管理

検査精度確認のため、生菌数検査を年4回実施した。

(4) 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について、微生物学的検査（大腸菌群検査）を実施した。

イ ウイルス検査

(7) 国立感染症研究所が実施する厚生労働省外部精度管理事業（2018年度）「課題1 麻疹・風疹」に参加した。

検査は、同所から送付された検体について実施した。

(4) 国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センターが実施する「インフルエンザウイルス分離培養・亜型同定技術実態調査（iTips2018）」に参加した。

検査は同センターから送付された検体について実施した。

ウ 臨床検査

厚生労働省エイズ対策政策研究事業のHIV検査の精度管理に参加した。

検査は、東京都健康安全研究センターから送付された検体（血清）について実施した。

エ 理化学検査

内部精度管理は、食品等や家庭用品の理化学検査試行毎の精度確認であり、外部精度管理は、外部機関から送付される擬似食品等を通常と同様に検査を行い、他の検査施設との比較を目的に行うもので、食品等や飲料水等の理化学検査について行った。（表1-15）。

各検査は、「標準作業書」に基づき実施し、「検査標準作業書」は常に見直し、必要な改定を実施した。また、食品等や家庭用品検査に使用する機器類についても、GLPで規定した「機械器具保守管理標準作業書」に基づく保守点検を実施した。

(7) 食品等検査

保健所が「千葉市食品衛生監視指導計画」に基づき収去、買上した検体の検査については、「千葉市食品衛生検査施設における検査等の業務管理要領」に基づき実施した。

a 内部精度管理

検査精度確認のため、試験品の検査頻度に応じ、検査項目ごとに添加回収試験を実施した。

b 外部精度管理

第三者機関である一般財団法人食品薬品安全センターから送付された検体について延べ3回の検査を実施した。

(4) 家庭用品検査

保健所が「千葉市家庭用品監視指導要領」に基づき試買した検体の検査については、「千葉市家庭用品検査施設における検査等の業務管理要領」に基づき実施した。内部精度管理として、検査項目毎に件数に応じた頻度での添加回収試験を実施した。

(7) 飲料水等検査

一般及び行政依頼による検体の検査について、「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法（平成15年厚生労働省告示第261号）」に基づき実施した。

a 内部精度管理

約10試料毎及び最後に一定濃度の標準試料を測定し、算出濃度が規定値内かを確認した。

b 外部精度管理

千葉県水道水質管理連絡協議会及び厚生労働省が実施する外部精度管理に参加し、延べ3回5項目について実施した。

(6) 千葉市感染症情報センター

千葉市結核・感染症発生動向調査実施要綱に基づき、地方感染症情報センターとしての業務を行った。なお、本業務の集計・解析は年単位（毎年1月から12月まで）であるが、冬期に流行するインフルエンザについてはシーズン単位（9月第36週から翌年8月第35週まで）としている。以下、2018年及び2018/19シーズンの業務概要を報告する。

ア 感染症情報の報告と還元について

千葉市感染症情報センターは、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づく感染症を対象に、千葉市内で収集された全ての情報を国立感染症研究所感染症疫学センターに報告している。

報告は、2006年5月から国が一元管理する感染症サーベイランスシステム（NESID）によって、オンラインで行われている。また、感染症の予防とまん延防止に寄与することを目的に、情報の集計及び分析結果を保健所等の関係機関に提供するとともに、ホームページで週報・月報として公開している。

イ 指定届出機関について

定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、指定届出機関として患者定点及び疑似症定点を選定している。2018年の千葉市内の患者定点と疑似症定点は、延べ114か所である。

内訳は、小児科定点18か所、インフルエンザ定点28か所（小児科定点及び内科定点と重複）、眼科定点5か所、性感染症（STD）定点7か所（基幹定点の重複含む）、基幹定点1か所（市立青葉病院）及び疑似症定点55か所である。

ウ 指定提出機関について

定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体を収集するため、指定提出機関として病原体定点をあらかじめ選定している。

2018年の千葉市内の病原体定点は、2か所（内科定点1か所、小児科定点1か所）である。

エ 感染症発生動向調査の対象疾患について

1999年4月の感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（以下「法」という）の施行時は、全数把握対象感染症45疾患、定点把握対象感染症28疾患が感染症発生動向調査の対象であった。その後の法の改正（最新は2018年4月）により、全数把握対象感染症が87疾患（一類7疾患、二類7疾患、三類5疾患、四類44疾患及び五類の一部24疾患）、定点把握対象感染症が24疾患（五類の一部24疾患）となっている。2018年の調査対象感染症を表1-16に示した。

百日咳は、成人を含む百日咳患者の発生動向を正確に把握するため、2018年1月1日からこれまでの小児科定点把握対象の五類感染症から五類全数把握対象の感染症に変更となった。また、急性弛緩性麻痺が5月1日から五類全数把握対象の感染症に指定

された。

オ 全数把握対象感染症の発生状況

2018年における全数把握感染症の月別届出数を表1-17に、過去5年の届出数の推移を表1-18に示した。

カ 定点把握対象感染症の発生状況

(7) 週単位の報告を必要とする定点把握対象感染症

小児科定点把握対象の感染症11疾患、眼科定点把握対象の感染症2疾患及び基幹定点把握対象の感染症5疾患について、週別定点当たりの患者報告数の過去5年の推移を図1-1に示した。

(4) 月単位の報告を必要とする定点把握対象感染症

基幹定点把握対象の感染症3疾患について、月別報告数を表1-19に示した。また、性感染症（STD）定点把握対象の感染症4疾患及び非クラミジア性非淋菌性尿道炎（報告対象外）について、月別報告数等を表1-20に示した。

キ 2018年又は2018/19シーズンの発生動向が特徴的な感染症

全数把握対象及び定点把握対象の感染症のうち、例年に比べ発生動向に特徴があったものについて報告する。

(7) 全数把握対象の感染症

a レジオネラ症

届出数は14件で、2017年の倍であり過去10年で最多となった。性別では、男性12件（85.7%）、女性2件（14.3%）であった。年齢階級別では、60歳代5件（35.7%）、50歳代4件（28.6%）、70歳代3件（21.4%）の順で多く、50歳代未満の届出はなかった（図1-2-1）。病型は、肺炎型が13件（92.9%）でポンティアック熱型が1件（7.1%）であった（図1-2-2）。

b カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

届出数は20件で、2017年の16件より増加し、また2014年に調査が開始されて以来最多となった。性別では、男性が12件（60.0%）、女性が8件（40.0%）であった。年齢階級別では、50歳代5件（25.0%）、70歳代及び80歳代4件（20.0%）、40歳代3件（15.0%）の順で多かった（図1-3）。

c 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

届出数は9件で、2017年の3件の3倍となり、過去10年で最多となった。性別では、男性が5件（55.6%）、女性が4件（44.4%）であった。年齢階級別では、70歳代及び80歳代が共に2件（22.2%）の他は10歳代、20歳代、40歳代、60歳代及び90歳代でそれぞれ1件（11.1%）であった（図1-4-1）。分離・同定された病原体の血清群は、A群2件（22.2%）、B群1件（11.1%）、G群4件（44.4%）、不明2件（22.2%）であった（図1-4-2）。

d 百日咳

2018年から五類全数把握対象の感染症に変更となった。届出数は222件で、性別では、男性が106件（47.7%）、女性が116件（52.3%）であった。年齢階級別では、10歳未満が120件（54.1%）、10歳代62件（27.9%）、40歳代17件（7.7%）の順で多

かった。また、20歳未満は182件(82.0%)、成人は40件(18.0%)であった(図1-5-1)。ワクチン接種歴は、4回接種が144件(64.9%)、3回接種が7件(3.2%)、2回接種が2件(0.9%)、接種なしが10件(4.5%)、不明が59件(26.6%)であった(図1-5-2)。

e 風しん

2013年に220件の届出があつて以来、その届出数は一桁で推移していた。2018年においても第29週までは届出はなかつたが、第30週から届出数が急増し、合計は95件となった。性別では、男性が81件(85.3%)、女性が14件(14.7%)で、年齢階級別では、50歳代32件(33.7%)、40歳代27件(28.4%)、20歳代15件(15.8%)の順で多く、40歳代から50歳代の男性が中心となって流行した。なお、10歳未満の届出はなかつた(図1-6-1)。ワクチン接種歴は、接種2回1件(1.1%)、接種1回5件(5.3%)、接種なし28件(29.5%)、不明61件(64.2%)であり、不明又は無しが全体の93.7%であった(図1-6-2)。

(4) 定点把握対象の感染症

a RSウイルス感染症

報告数は266件で2017年の329件より減少したが、発生のピークが年々早まってきている。定点当たりの報告数のピークが2014年は第50週(1.06)、2015年は第50週及び第51週(1.06)と例年は冬期に発生のピークがあつたが、2016年は第40週(1.68)、2017年は第35週(2.67)、2018年は第30週(1.17)でピークを迎えた(図1-7-1)。年齢階級別では、1歳106件(39.8%)、6~11か月60件(22.6%)、0~5か月45件(16.9%)の順で多かつた(図1-7-2)。

b 伝染性紅斑

報告数は245件で、2017年の58件の4倍以上となったが、過去10年と比べると平均より少なめであった。例年はおよそ第16週から第31週までの初夏期に多く発生が見られたが、2018年は例年の流行シーズンが終わった後の第36週から増加し始め、第48週に年間の最高値となった(図1-8-1)。年齢階級別では、5歳50件(20.4%)、4歳45件(18.4%)、6歳31件(12.7%)の順で多かつた(図1-8-2)。

c インフルエンザ

(2018年36週から2019年27週)

2018/19シーズンは、流行の目安とされている定点当たりの報告数1.00を第49週に上回った。これは前シーズンより2週遅かつた。2019年第2週に前週より5倍近く増加し10.00を上回り、第4週にはピークを迎え68.00となった。これは一週間当たりの定点当たりの報告数としては、現行の感染症発生動向調査が始まった1999/2000シーズン以来最多となった。その後は減少し、第13週に1.00を下回った(図1-9-1)。

定点医療機関の協力による迅速診断結果の集計では、2018/19シーズンは2019年第15週までA型が優位であつたが、以降はB型が優位となった。2018年第36週から2019年第27週までにA型7074件

(81.7%)、B型223件(2.6%)、A型かつB型7件(0.1%)、A型又はB型1352件(15.6%)の報告があつた(図1-9-2)。

表1-16 調査対象感染症一覧

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律の施行に伴う感染症発生动向調査事業の実施について(1999年3月19日健
 医発第458号通知：2018年4月10日健発0410第1号改正)2018年5月1日施行

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
1	1類	エボラ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
2	1類	クリミア・コンゴ出血熱	全数	直ちに	○	○	○
3	1類	痘そう	全数	直ちに	○	○	○
4	1類	南米出血熱	全数	直ちに	○	○	○
5	1類	ベスト	全数	直ちに	○	○	○
6	1類	マールブルグ病	全数	直ちに	○	○	○
7	1類	ラッサ熱	全数	直ちに	○	○	○
8	2類	急性灰白髄炎	全数	直ちに	○		○
9	2類	結核	全数	直ちに	○	○	○
10	2類	ジフテリア	全数	直ちに	○		○
11	2類	重症急性呼吸器症候群 (1)	全数	直ちに	○	○	○
12	2類	中東呼吸器症候群 (2)	全数	直ちに	○	○	○
13	2類	鳥インフルエンザ (H5N1)	全数	直ちに	○	○	○
14	2類	鳥インフルエンザ (H7N9)	全数	直ちに	○	○	○
15	3類	コレラ	全数	直ちに	○		○
16	3類	細菌性赤痢	全数	直ちに	○		○
17	3類	腸管出血性大腸菌感染症	全数	直ちに	○		○
18	3類	腸チフス	全数	直ちに	○		○
19	3類	パラチフス	全数	直ちに	○		○
20	4類	E型肝炎	全数	直ちに	○		○
21	4類	ウエストナイル熱 (3)	全数	直ちに	○		○
22	4類	A型肝炎	全数	直ちに	○		○
23	4類	エキノコックス症	全数	直ちに	○		○
24	4類	黄熱	全数	直ちに	○		○
25	4類	オウム病	全数	直ちに	○		○
26	4類	オムスク出血熱	全数	直ちに	○		○
27	4類	回帰熱	全数	直ちに	○		○
28	4類	キャサヌル森林病	全数	直ちに	○		○
29	4類	Q熱	全数	直ちに	○		○
30	4類	狂犬病	全数	直ちに	○		○
31	4類	コクシジオイデス症	全数	直ちに	○		○
32	4類	サル痘	全数	直ちに	○		○
33	4類	ジカウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
34	4類	重症熱性血小板減少症候群 (4)	全数	直ちに	○		○
35	4類	腎症候性出血熱	全数	直ちに	○		○
36	4類	西部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
37	4類	ダニ媒介脳炎	全数	直ちに	○		○
38	4類	炭疽	全数	直ちに	○		○
39	4類	チクングニア熱	全数	直ちに	○		○
40	4類	つつが虫病	全数	直ちに	○		○
41	4類	デング熱	全数	直ちに	○		○
42	4類	東部ウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
43	4類	鳥インフルエンザ (5)	全数	直ちに	○		○
44	4類	ニバウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
45	4類	日本紅斑熱	全数	直ちに	○		○
46	4類	日本脳炎	全数	直ちに	○		○

表1-16 調査対象感染症一覧

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
47	4類	ハンタウイルス肺症候群	全数	直ちに	○		○
48	4類	Bウイルス病	全数	直ちに	○		○
49	4類	鼻疽	全数	直ちに	○		○
50	4類	ブルセラ症	全数	直ちに	○		○
51	4類	ベネズエラウマ脳炎	全数	直ちに	○		○
52	4類	ヘンドラウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
53	4類	発しんチフス	全数	直ちに	○		○
54	4類	ボツリヌス症	全数	直ちに	○		○
55	4類	マラリア	全数	直ちに	○		○
56	4類	野兔病	全数	直ちに	○		○
57	4類	ライム病	全数	直ちに	○		○
58	4類	リッサウイルス感染症	全数	直ちに	○		○
59	4類	リフトバレー熱	全数	直ちに	○		○
60	4類	類鼻疽	全数	直ちに	○		○
61	4類	レジオネラ症	全数	直ちに	○		○
62	4類	レプトスピラ症	全数	直ちに	○		○
63	4類	ロッキー山紅斑熱	全数	直ちに	○		○
64	5類	アメーバ赤痢	全数	7日以内	○		
65	5類	ウイルス性肝炎 (6)	全数	7日以内	○		
66	5類	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	全数	7日以内	○		
67	5類	急性弛緩性麻痺 (7)	全数	7日以内	○		
68	5類	急性脳炎 (8)	全数	7日以内	○		
69	5類	クリプトスポリジウム症	全数	7日以内	○		
70	5類	クロイツフェルト・ヤコブ病	全数	7日以内	○		
71	5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	全数	7日以内	○		
72	5類	後天性免疫不全症候群	全数	7日以内	○		○
73	5類	ジアルジア症	全数	7日以内	○		
74	5類	侵襲性インフルエンザ菌感染症	全数	7日以内	○		
75	5類	侵襲性髄膜炎菌症	全数	直ちに	○		
76	5類	侵襲性肺炎球菌感染症	全数	7日以内	○		
77	5類	水痘 (9)	全数	7日以内	○		
78	5類	先天性風しん症候群	全数	7日以内	○		
79	5類	梅毒	全数	7日以内	○		○
80	5類	播種性クリプトコックス症	全数	7日以内	○		
81	5類	破傷風	全数	7日以内	○		
82	5類	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	全数	7日以内	○		
83	5類	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	全数	7日以内	○		
84	5類	百日咳	全数	7日以内	○		
85	5類	風しん	全数	直ちに	○		
86	5類	麻しん	全数	直ちに	○		
87	5類	薬剤耐性アシネトバクター感染症	全数	7日以内	○		
88	5類	R Sウイルス感染症	定点	翌週の月曜日	○		
89	5類	咽頭結膜熱	定点	翌週の月曜日	○		
90	5類	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	定点	翌週の月曜日	○		
91	5類	感染性胃腸炎	定点	翌週の月曜日	○		
92	5類	水痘	定点	翌週の月曜日	○		
93	5類	手足口病	定点	翌週の月曜日	○		
94	5類	伝染性紅斑	定点	翌週の月曜日	○		

表1-16 調査対象感染症一覧

No	感染症 類型	対象感染症	届出方法		届出対象		
			種別	時期	患者	擬似症 患者	無症状病原 体保有者
95	5類	突発性発しん	定点	翌週の月曜日	○		
96	5類	ヘルパンギーナ	定点	翌週の月曜日	○		
97	5類	流行性耳下腺炎	定点	翌週の月曜日	○		
98	5類	インフルエンザ (10)	定点	翌週の月曜日	○		
99	5類	急性出血性結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
100	5類	流行性角結膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
101	5類	性器クラミジア感染症	定点	翌月初日	○		
102	5類	性器ヘルペスウイルス感染症	定点	翌月初日	○		
103	5類	尖圭コンジローマ	定点	翌月初日	○		
104	5類	淋菌感染症	定点	翌月初日	○		
105	5類	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	定点	翌週の月曜日	○		
106	5類	細菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
107	5類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	定点	翌月初日	○		
108	5類	マイコプラズマ肺炎	定点	翌週の月曜日	○		
109	5類	無菌性髄膜炎	定点	翌週の月曜日	○		
110	5類	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	定点	翌月初日	○		
111	5類	薬剤耐性緑膿菌感染症	定点	翌月初日	○		
112	新型 インフル等 ※	新型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
113		再興型インフルエンザ	全数	直ちに	○	○	○
114	疑似症	発熱、呼吸器症状、発しん、消化器症状又は神経症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断したもの	定点	直ちに (オンラインシステムにより、 擬似症定点から 国へ直接報告)	-	-	-

※ 「新型インフル等」とは、「新型インフルエンザ等感染症」のこと

- (1) 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る
- (2) 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る
- (3) ウエストナイル脳炎を含む
- (4) 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る
- (5) H5N1及びH7N9を除く
- (6) E型肝炎及びA型肝炎を除く
- (7) 急性灰白髄炎を除く
- (8) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く
- (9) 患者が入院を要すると認められるものに限る
- (10) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く

表1-17 全数把握感染症の月別届出数（2018年）

類型	感染症名	届出数（2018年）													
		計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
5類	アメーバ赤痢	3										1		1	1
	ウイルス性肝炎														
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	20		3	2		1	1	2	2	3	2	2	2	
	急性弛緩性麻痺	3										2	1		
	急性脳炎	12			2		1	4	1	1		1	1	1	
	クリプトスポリジウム症														
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1										1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9	1	1	1		1			1	3			1	
	後天性免疫不全症候群	3							1	1				1	
	ジアルジア症	1	1												
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3					1							2	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1												1	
	侵襲性肺炎球菌感染症	25	4	1			8	1	5		1		2	3	
	水痘（入院例）	3					2							1	
	先天性風しん症候群														
	梅毒	23	4	1		4	2	3	1	2	2	3	1		
	播種性クリプトコックス症	2							1		1				
	破傷風	2						1						1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症														
	百日咳	222	1	8	4	3	10	22	36	51	39	19	11	18	
風しん	95							9	31	14	20	10	11		
麻しん															
薬剤耐性アシネトバクター感染症															
新型インフルエンザ															
	計	662	29	35	29	21	45	56	74	115	84	65	50	59	

表1-18 全数把握感染症の年別届出数の年別推移(2014年-2018年)

「-」は調査対象外

類型	感染症名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
1類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	痘そう					
	南米出血熱					
	ペスト					
	マールブルグ病					
2類	ラッサ熱					
	急性灰白髄炎					
	結核	261	231	238	215	177
	ジフテリア					
	重症急性呼吸器症候群					
	中東呼吸器症候群	-				
3類	鳥インフルエンザ					
	鳥インフルエンザ (H7N9)					
	コレラ			1		
	細菌性赤痢	5		1	1	1
	腸管出血性大腸菌感染症	20	13	20	24	24
4類	腸チフス		1			1
	パラチフス					
	E型肝炎	5	3	7	7	7
	ウエストナイル熱					
	A型肝炎	7	6	5	5	9
	エキノコックス症					
	黄熱					
	オウム病					
	オムスク出血熱					
	回帰熱					
	キャサヌル森林病					
	Q熱					
	狂犬病					
	コクシジオイデス症	1				
	サル痘					
	ジカウイルス感染症	-	-			
	重症熱性血小板減少症候群					
	腎症候性出血熱					
	西部ウマ脳炎					
	ダニ媒介脳炎					
	炭疽					
	チクングニア熱	1				
	つつが虫病	1	1		2	1
	デング熱	3	3	5	1	
	東部ウマ脳炎					
	鳥インフルエンザ					
	ニパウイルス感染症					
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					
	ハンタウイルス肺症候群					
	Bウイルス病					
	鼻疽					
	ブルセラ症					
	ベネズエラウマ脳炎					
ヘンドラウイルス感染症						
発しんチフス						
ボツリヌス症						
マラリア						
野兔病						
ライム病	1					
リッサウイルス感染症						
リフトバレー熱						
類鼻疽						
レジオネラ症	3	13	8	7	14	
レプトスピラ症						
ロッキー山紅斑熱						

表1-18 全数把握感染症の年別届出数の年別推移(2014年-2018年)

「-」は調査対象外

類型	感染症名	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
5類	アメーバ赤痢	5	9	8	5	3
	ウイルス性肝炎		5	2	1	
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2	17	12	16	20
	急性弛緩性麻痺	-	-	-	-	3
	急性脳炎	21	15	30	19	12
	クリプトスポリジウム症			1		
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1		1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	6	7	3	9
	後天性免疫不全症候群	15	7	8	5	3
	ジアルジア症		3	1		1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	5	1	3
	侵襲性髄膜炎菌感染症					1
	侵襲性肺炎球菌感染症	12	25	28	25	25
	水痘（入院例）	3	1	1		3
	先天性風しん症候群	1				
	梅毒	17	13	29	33	23
	播種性クリプトコックス症		1	3		2
	破傷風	2			1	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					
	百日咳	-	-	-	-	222
	風しん	3	4	4	1	95
	麻しん					
薬剤耐性アシネトバクター感染症			1			
新型インフルエンザ						

(定点あたりの報告数)

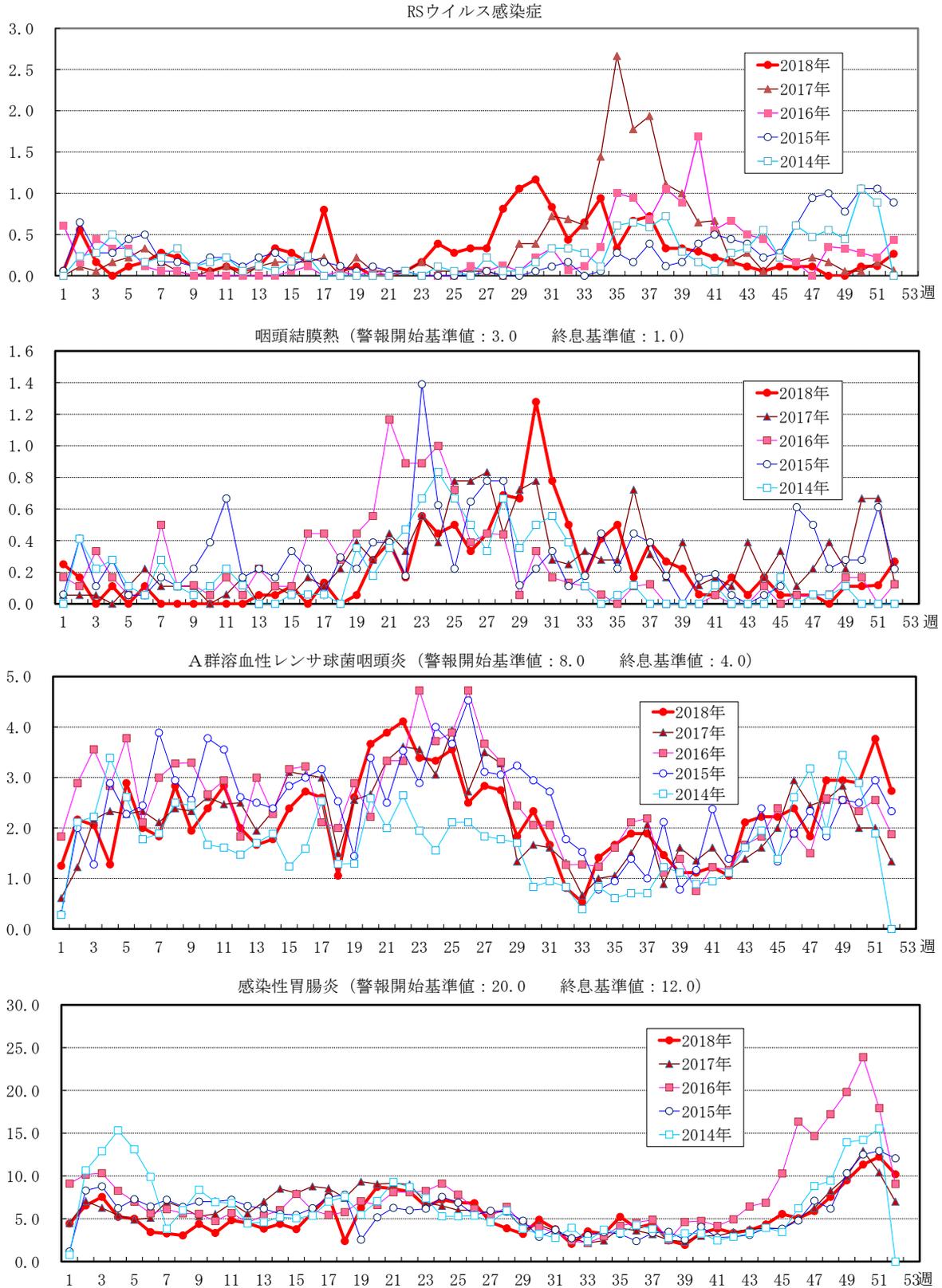


図1-1 定点把握感染症報告数の年別推移 (2014年-2018年)

(定点あたりの報告数)

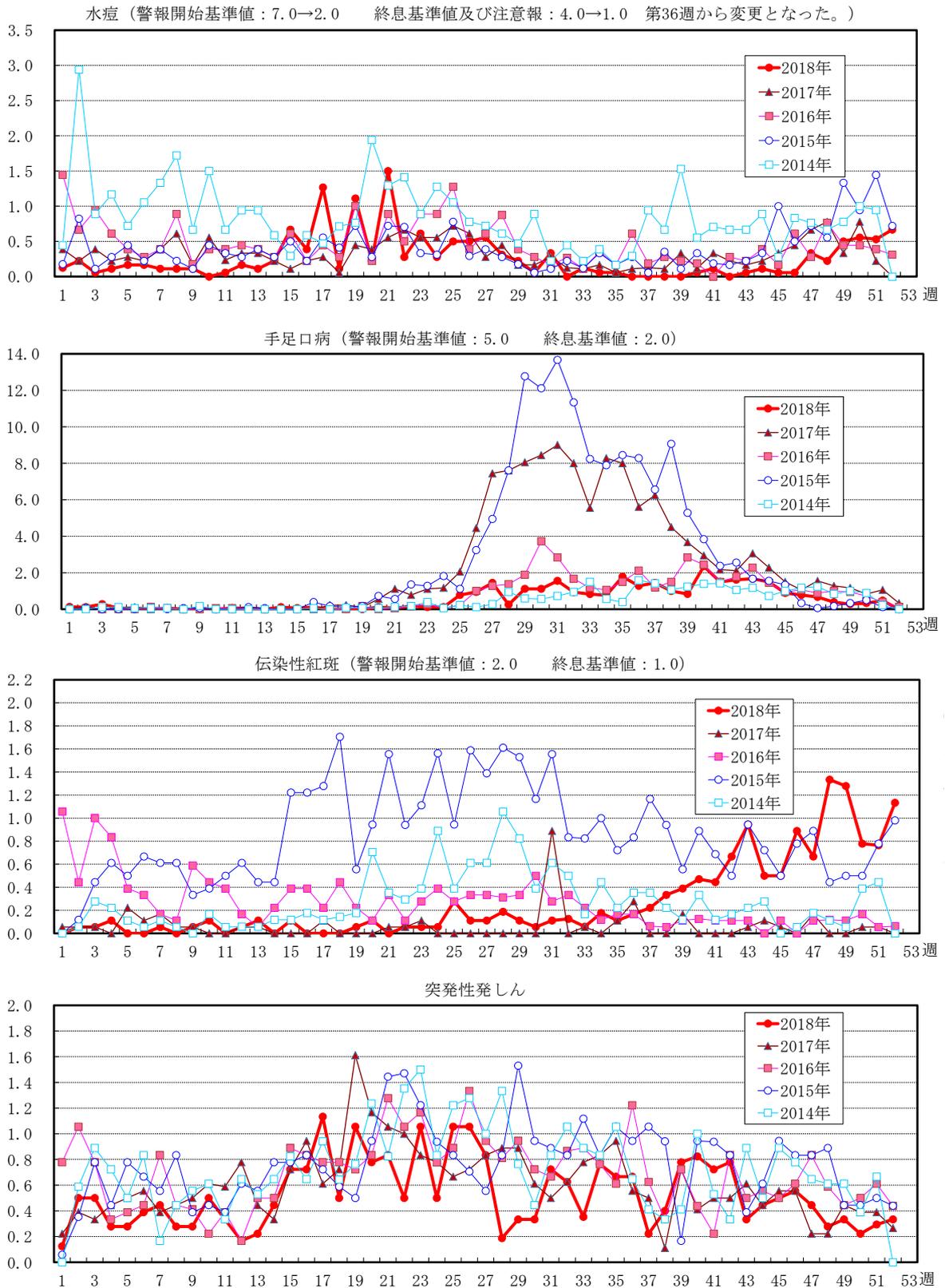


図1-1 定点把握感染症報告数の年別推移 (2014年-2018年)

(定点あたりの報告数)

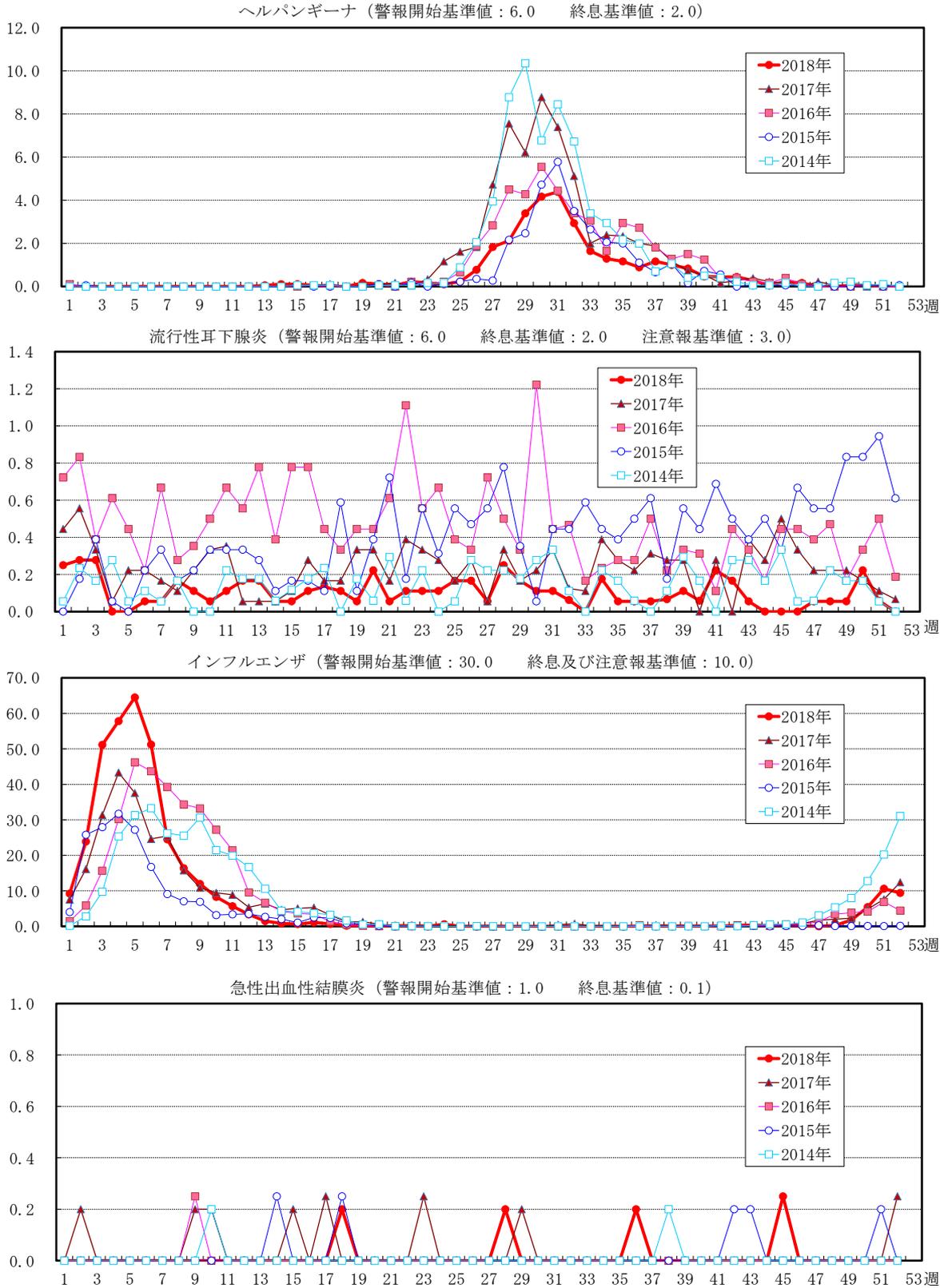


図1-1 定点把握感染症報告数の年別推移 (2014年-2018年)

(定点あたりの報告数)

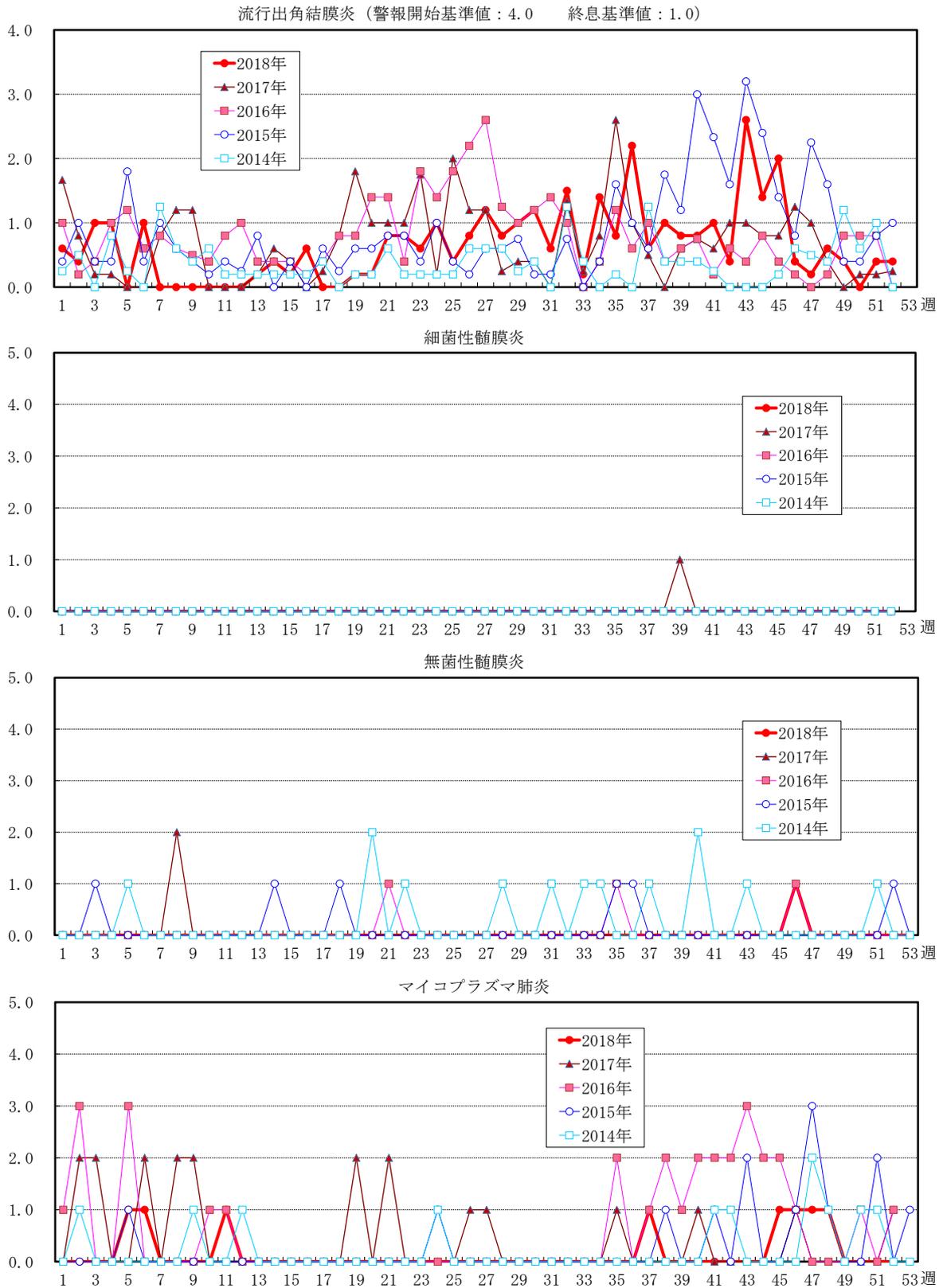


図1-1 定点把握感染症報告数の年別推移 (2014年-2018年)

(定点あたりの報告数)

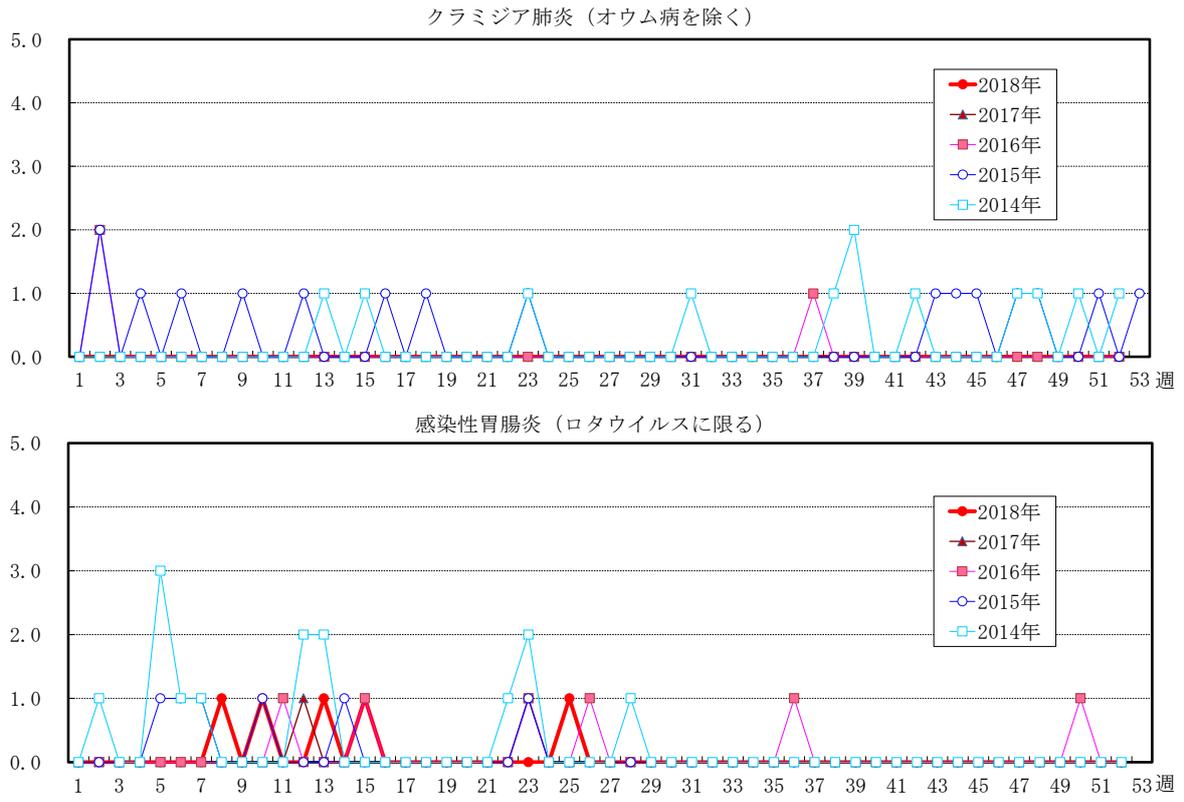


図1-1 定点把握感染症報告数の年別推移 (2014年-2018年)

表1-19 基幹定点把握感染症の月別報告数（2018年）

類型	感染症名		月別報告数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
5類	メチシリン耐性ブドウ球菌感染症	計	2	2	2	2	2	3	7	4	2	5	3	5	39
		男	2	2	2	1	1	2	5	2	0	2	3	0	22
		女	0	0	0	1	1	1	2	2	2	3	0	5	17
5類	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	計	6	2	2	2	2	1	0	4	0	1	0	0	20
		男	4	2	1	1	1	1	0	3	0	0	0	0	13
		女	2	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	0	7
5類	薬剤耐性緑膿菌感染症	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(数字は定点当たりの報告数/定点数:1)

表1-20 定点把握性感染症の月別報告数（2018年）

類型	感染症名		月別報告数												計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
5類	性器クラミジア感染症	計	8	6	14	11	24	17	17	14	16	17	11	9	164
			1.1	0.9	2.0	1.6	3.4	2.4	2.4	2.3	2.7	2.8	1.8	1.3	2.1
		男	4	2	6	7	14	12	12	10	10	9	4	5	95
	0.6	0.3	0.9	1.0	2.0	1.7	1.7	1.7	1.7	1.5	0.7	0.7	1.2		
	女	4	4	8	4	10	5	5	4	6	8	7	4	69	
	0.6	0.6	1.1	0.6	1.4	0.7	0.7	0.7	1.0	1.3	1.2	0.6	0.9		
5類	性器ヘルペスウイルス感染症	計	9	4	11	8	5	6	6	8	8	8	5	86	
			1.3	0.6	1.6	1.1	0.7	0.9	0.9	1.3	1.3	1.3	1.3	0.7	1.1
		男	2	2	2	0	2	4	2	6	2	2	3	0	27
	0.3	0.3	0.3	0.0	0.3	0.6	0.3	1.0	0.3	0.3	0.5	0.0	0.3		
	女	7	2	9	8	3	2	4	2	6	6	5	5	59	
	1.0	0.3	1.3	1.1	0.4	0.3	0.6	0.3	1.0	1.0	0.8	0.7	0.7		
5類	尖圭コンジローマ	計	7	1	4	5	4	8	4	4	5	7	5	5	59
			1.0	0.1	0.6	0.7	0.6	1.1	0.6	0.7	0.8	1.2	0.8	0.7	0.7
		男	3	1	1	2	2	6	4	4	3	4	2	3	35
	0.4	0.1	0.1	0.3	0.3	0.9	0.6	0.7	0.5	0.7	0.3	0.4	0.4		
	女	4	0	3	3	2	2	0	0	2	3	3	2	24	
	0.6	0.0	0.4	0.4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.3	0.5	0.5	0.3	0.3		
5類	淋菌感染症	計	8	4	9	4	8	8	11	12	4	1	4	1	74
			1.1	0.6	1.3	0.6	1.1	1.1	1.6	2.0	0.7	0.2	0.7	0.1	0.9
		男	8	3	9	4	8	7	7	12	4	1	4	1	68
	1.1	0.4	1.3	0.6	1.1	1.0	1.0	2.0	0.7	0.2	0.7	0.1	0.9		
	女	0	1	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	6	
	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1		
なし	非クラミジア性非淋菌性尿道炎	計	28	14	34	23	21	23	31	34	17	5	9	19	258
			4.0	2.0	4.9	3.3	3.0	3.3	4.4	5.7	2.8	0.8	1.5	2.7	3.2
		男	27	14	33	23	21	20	30	34	17	5	9	19	252
	3.9	2.0	4.7	3.3	3.0	2.9	4.3	5.7	2.8	0.8	1.5	2.7	3.2		
	女	1	0	1	0	0	3	1	0	0	0	0	0	6	
	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1		

上段：報告数、下段：定点あたりの報告数

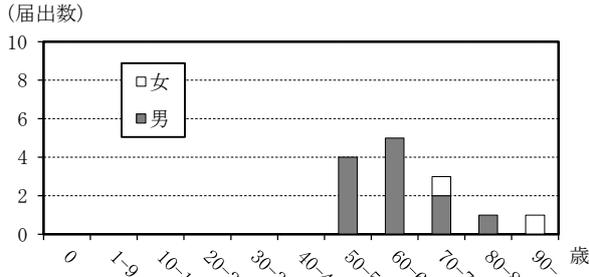


図1-2-1 レジオネラ症 性別及び年齢階級別届出数

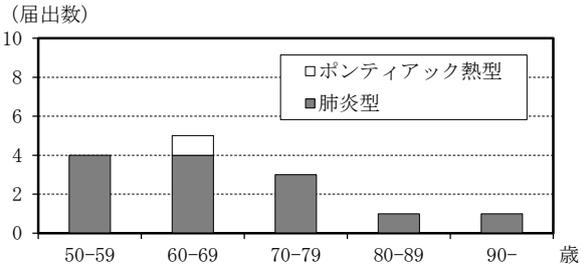


図1-2-2 レジオネラ症 病型別届出数

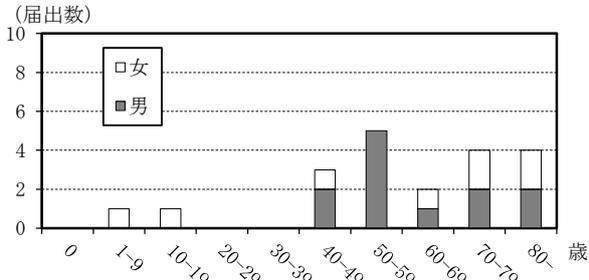


図1-3 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

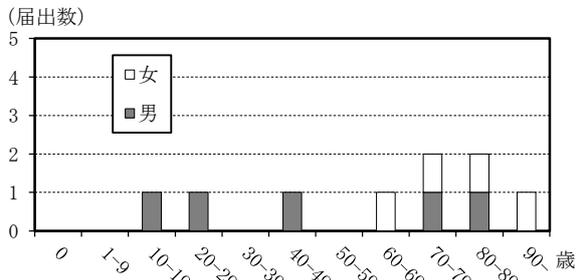


図1-4-1 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 性別及び年齢階級別届出数

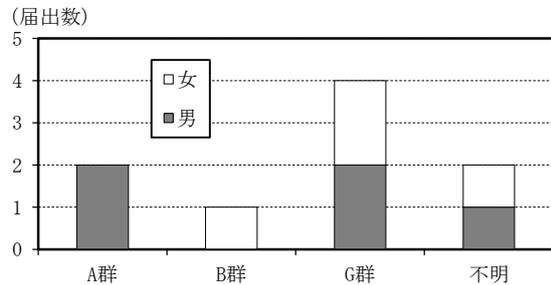


図1-4-2 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 病原体の血清群別届出数

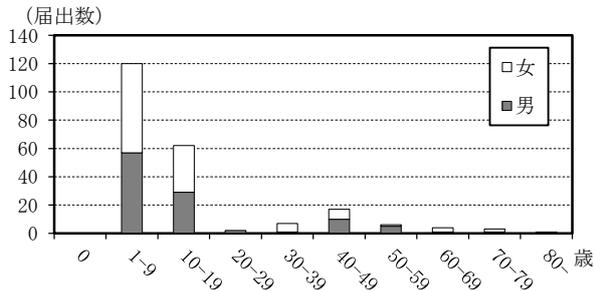


図1-5-1 百日咳 性別及び年齢階級別届出数

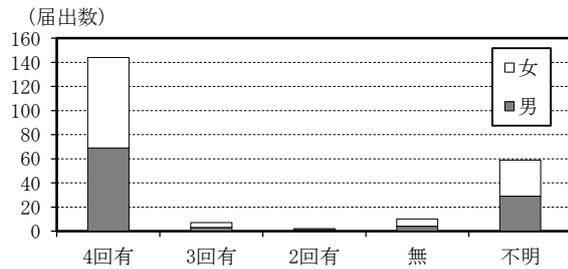


図1-5-2 百日咳 ワクチン接種歴べつ届出数

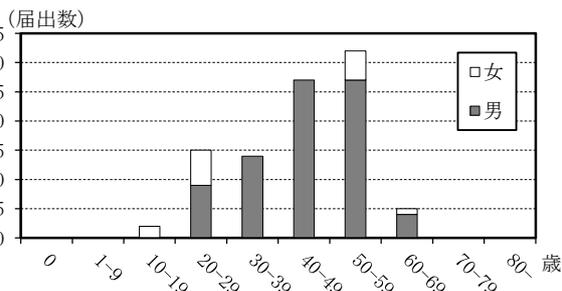


図1-6-1 風しん 性別及び年齢階級別届出数

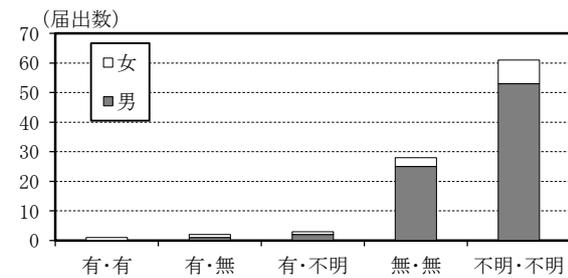


図1-6-2 風しん ワクチン接種歴別届出数

(定点あたりの報告数)

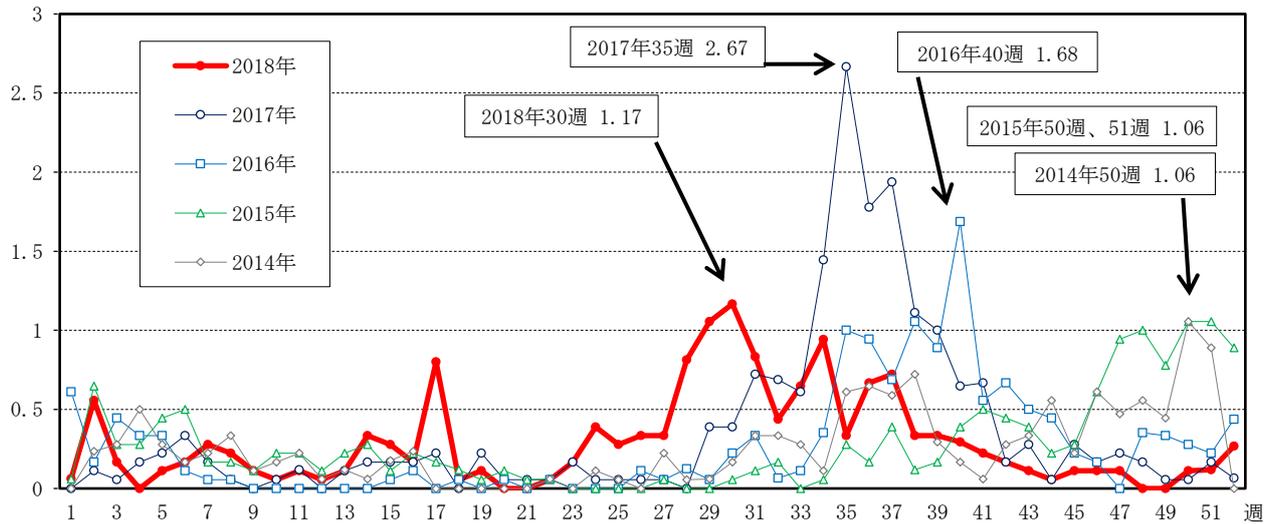


図1-7-1 RSウイルス感染症 週ごとの定点当たりの報告数

(報告数)

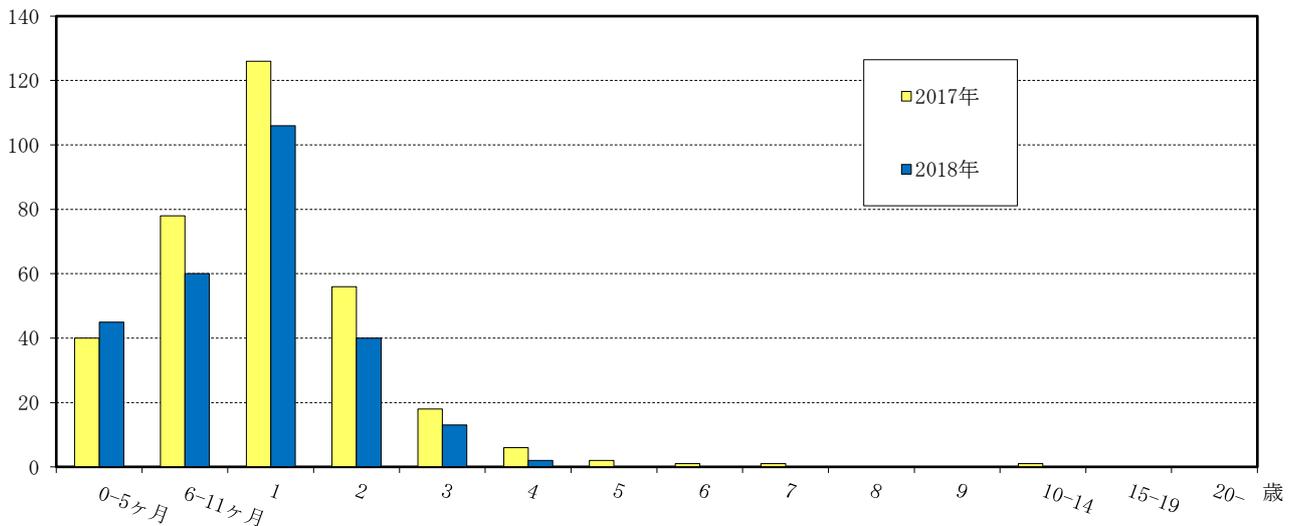


図1-7-2 RSウイルス感染症 年齢階級別患者報告数

(定点あたりの報告数)

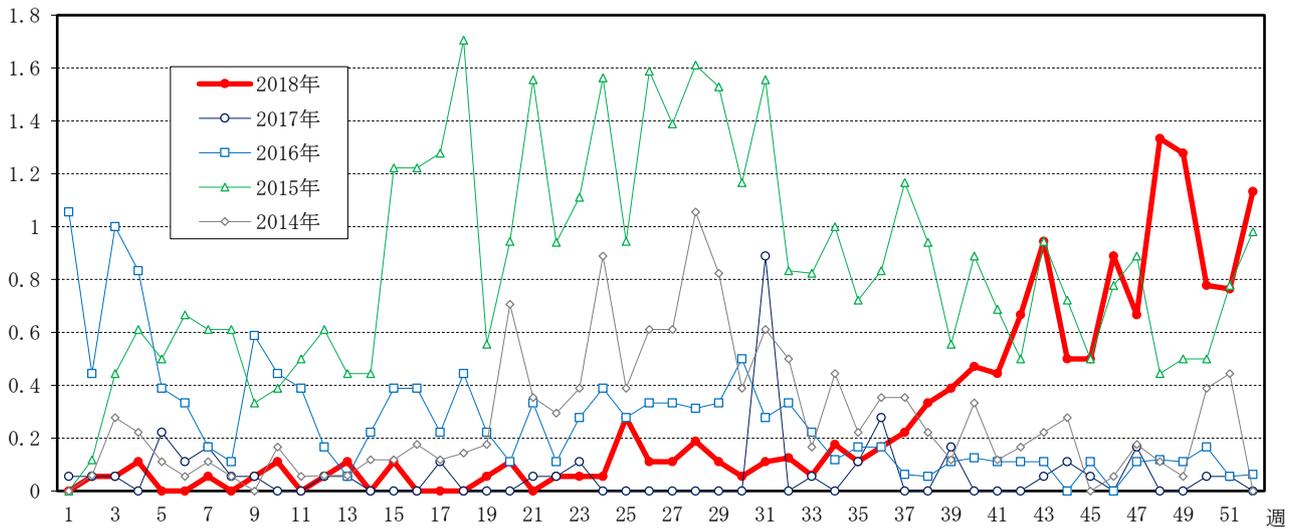


図1-8-1 伝染性紅斑 週ごとの定点当たりの報告数

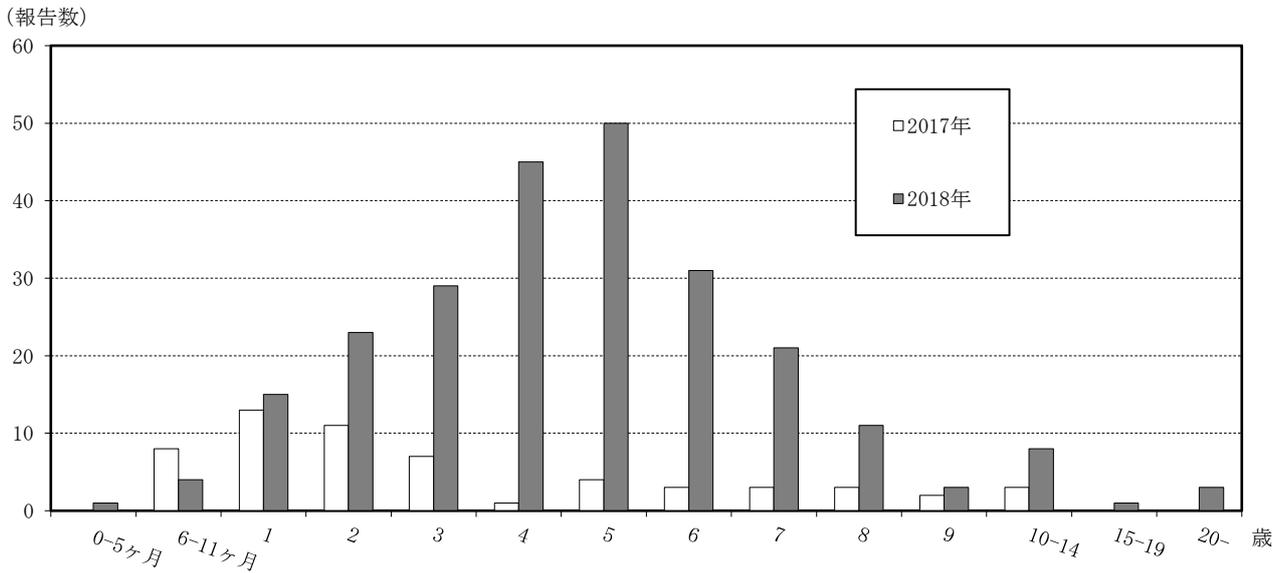


図1-8-2 伝染性紅斑 年齢階級別患者報告数

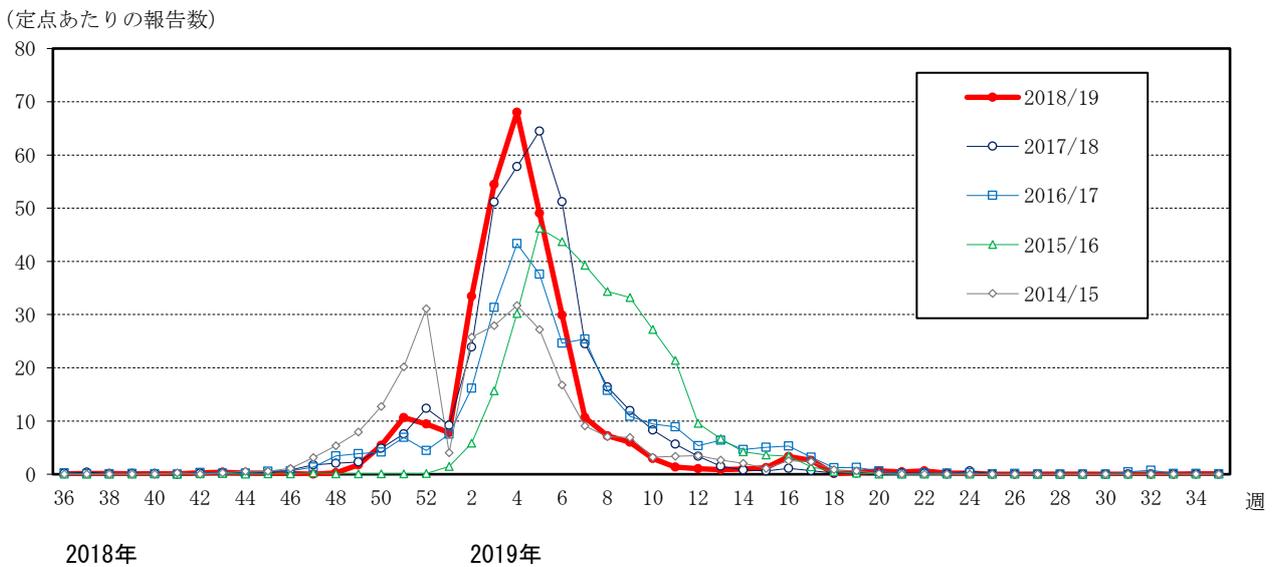


図1-9-1 インフルエンザ（流行シーズン別） 週ごとの定点当たりの報告数

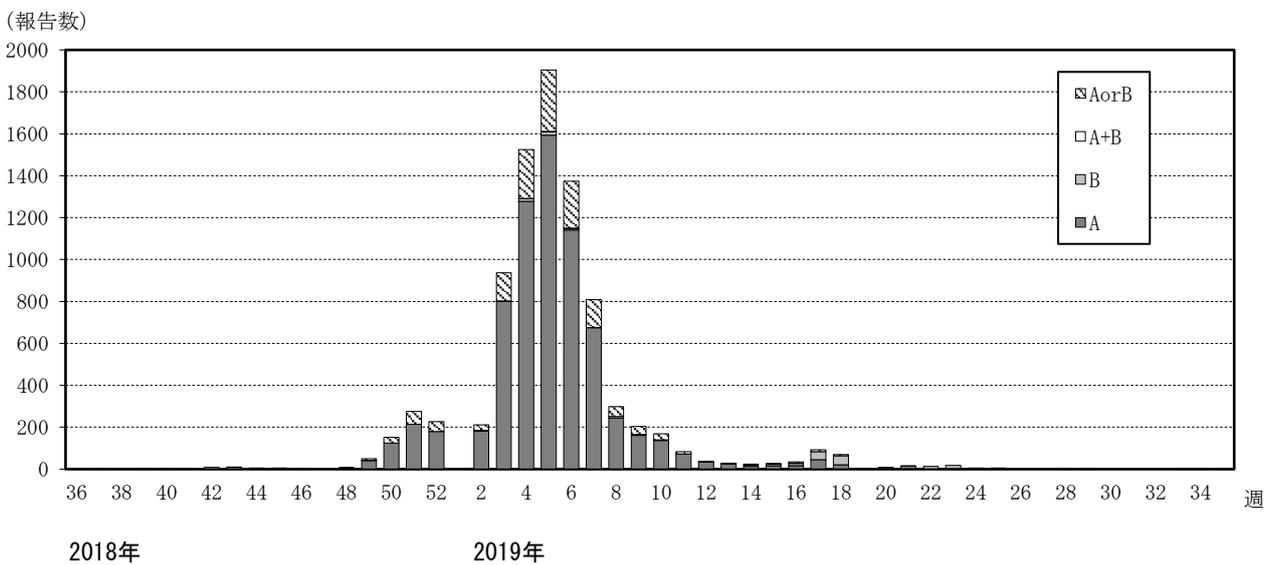


図1-9-2 インフルエンザ迅速診断結果（流行シーズン別）：2019年7月7日現在